

目次

- セミナー BCP対策セミナー ～実践的・現実的な危機管理とは？～
- 新コース KY研修 ヒューマンエラー撲滅の決定版 本格的に開始！
- トピック Inst. Tech View～ Cisco IOS vs. JUNOS(後編) ～
- コラム スーパーエンジニアの独り言 “Doug Cutting氏 来日”

セ | ミ | ナ | ー |

◆◇ BCP対策セミナー ～実践的・現実的な危機管理とは？～ 開催決定！ ◆◇

このたびの東日本大震災で被害にあわれた皆様に心よりお見舞い申し上げます。
また、被災地の皆様の安全と、一日も早い復興を心より祈念いたします。

震災後半年が経過し、注目されているキーワードがBCPです。
BCP(Business Continuity Plan)を平時に準備し、確実に実行できた企業と
そうではない企業とでは、震災後の事業復旧にかかる期間が、想像以上に違って
きます。

企業としての危機管理とは何か、事業の継続性はどのように設計すべきなのか。
今回のセミナーでは、前東京都総合防災部情報統括課長の齋藤實氏をお迎えし、
危機管理に対するご経験とお考えを講演いただきます。
齋藤氏は、3月の大震災時に東京都災害対策本部の広報班の責任者として、プレス
対応等を担当された、災害対策の専門家です。

本セミナーでは、ITにおけるBCP策定に必要な要素についてもご紹介します。
この機会に、是非自社のBCPについてご検討ください。

◆ 概 要 ◆

- 【日 時】 2011年11月25日 (金) 14:00 - 16:00 (13:30 受付開始)
- 【会 場】 CTCテクノロジー・駒沢ラーニングセンター (受付2F)
<http://www.school.ctc-g.co.jp/map/komazawa.html>
- 【共 催】 伊藤忠テクノソリューションズ株式会社
CTCテクノロジー株式会社
- 【定 員】 30名 (参加費無料)
- 【申込み】 <http://www.school.ctc-g.co.jp/seminar/index.html>
- 【対 象】 危機管理、BCP、バックアップにご興味のある方

問合せ先：CTCテクノロジー株式会社 エデュケーションサービス部
TEL：0120-667230

◆ プログラム ◆

- 【第1部 基調講演(14:00-15:00)】
東日本大震災に学ぶ、危機管理のあり方 ～企業が取るべき対策とは？～
危機管理勉強会「齋藤塾」塾長
齋藤 實 様 (前東京都総合防災部情報統括課長)
- 【第2部 (15:00-15:30)】
BCPガイドラインと必要構成技術の紹介
吉政創成株式会社 代表取締役 吉政 忠志
- 【第3部 (15:30-16:00)】
BCP対策に関連したIT人材育成メニューのご紹介
CTCテクノロジー株式会社 エデュケーションサービス部

新 | コ | ー | ス |

◆◇ CTCオリジナル KY (危険予知) 研修 本格提供開始！ ◆◇
ページ(1)

CTC教育サービスでは、このたび業界初のIT企業向けKY研修を本格的にご提供することとなりました。

「KY研修」は、中央労働災害防止協会の協力のもと、これまでCTCグループエンジニア向けに実施していた研修カリキュラム「KY研修」をベースに開発した独自プログラムです。

システムトラブルの原因の約8割は、システム運用におけるヒューマンエラーだと言われています。昨今、クラウドサービスの拡充により、クラウドを支えるインフラシステムの運用は複雑化しており、万が一システムトラブルが発生すると、その影響は今まで以上に甚大になる可能性が懸念されています。

KY（危険予知）とは、製造業や建設業の現場等において広く取り入れられている労働災害防止のための概念です。CTCでは、ITシステムを「社会を支える重要インフラ」の一つと捉え、ITシステムの運用現場にKYの概念を取り入れることで人的ミスによるシステムトラブル撲滅を目指すHEZ（ヒューマンエラーゼロ）活動に、1999年から取り組んでいます。社内向けKY研修はこのHEZ活動の啓蒙・教育を目的に、CTCT全従業員及びCTCのエンジニアを対象に実施している社内研修で、2010年度までに延べ13000名の従業員が受講しています。

KY研修には、以下の3つのコースをご用意しております。

- ・基礎コース：現場で作業する一般社員向けの基礎コースです。
- ・フォローアップコース：基礎コースを受講済みの方向けのコースです。
- ・マネージャーコース：管理者として、部署の課題を発見する感性を磨きます。

上記コースは全て、現在のところ1社向け研修としてのみご提供しております。

参考価格：各コース 16名様以上 50万円～

ご興味のある方は、下記までお問合せください。

CTCテクノロジー株式会社 サービスビジネス営業推進部
E-Mail：kyouiku@ctc-g.co.jp / TEL：03-6238-6810

ト | ピ | ッ | ク |

◆◇ 『 Inst. Tech View～第6回 “Cisco IOS vs. JUNOS”（後編）～ 』 ◇◆

今回のInst. Tech Viewは、前回に引続き、JuniperNetworksのネットワーク機器に搭載されているOS(Junos)についての話題です。

●その3：「設定コマンド」

Cisco IOSでは、設定対象ごとにモードを移動して設定するのが基本です。

（インタフェースはインタフェース設定モード）

一方JUNOSでは、モードを移動して設定することも、モードを移動せずに設定することも可能です。なお、JUNOSでは設定する際setコマンドを使用します。

[Cisco IOSの例]

```
(config)# interface fa0/1  
(config-if)# ip address 10.1.1.1 255.255.255.0
```

[JUNOSの例]

```
# set interfaces ge-0/0/0 unit 0 family inet address 10.1.1.1/24  
※モードを移動せず最上位の階層からsetコマンドを使用し設定できます。  
（インタフェースモードに入って設定する方法もあります）
```

●その4：「設定の削除コマンド」

Cisco IOSでは、noコマンドを使用して設定を削除します。

一方JUNOSでは、deleteコマンドを使用して設定を削除します。

[Cisco IOSの例]

```
(config)# interface fa0/1  
(config-if)# no ip address 10.1.1.1 255.255.255.0
```

無題

[JUNOSの例]

```
# delete interfaces ge-0/0/0 unit 0 family inet address 10.1.1.1/24  
(インタフェースモードに入って削除する方法もあります)
```

●その5：「設定の適用」

この点は、JUNOSを初めて使用する方には不思議に感じられるかもしれません。Cisco IOSでは、コマンドを入力するとすぐに設定が反映されます

(これを「インタプリタ型」と呼びます)。一方JUNOSでは、コマンドを入力してもすぐには反映されず、commitコマンドを入力することで、初めて設定が適用されます(これを「バッチ型」と呼びます)。最初は、JUNOSのコマンドを入力してもすぐに反映されないことに慣れないものです。

ただし、commitコマンドを入力するまでの間にコマンドの確認をしたり、一度に複数の設定を反映させることが可能になるので、慣れると便利に思えてきます。

このように、Cisco IOSとJUNOSでは設定方法や設定コマンド自体がかなり異なるため、Cisco IOSに慣れているネットワーク技術者であっても、JUNOSを初めて使用するときは戸惑う部分も多いかと思えます。

そこでCTCテクノロジーでは、JUNOSを初めて操作する方向けの研修「IJS」や、ルーティングやFilter (IOSで言うところのACL) の設定を学びたい方向けの研修「JRE」を提供しています。

今後JUNOSを学習しようという方は是非ご検討ください。

コースの詳細情報はこちら：

<http://www.school.ctc-g.co.jp/juniper/index.html>

コ | ラ | ム

◆◇ 『スーパーエンジニアの独り言 第3回 “Doug Cutting氏 来日” 』 ◇◆

今回の話題は「Doug Cutting (ダグ・カッティング) 氏の来日講演」です。Doug Cutting 氏とは、あの“Apache Hadoop”の創造主です。

“Hadoop”は、Twitter や Facebook など著名なサービスで大量データ処理の仕組みとして採用されていますのでその名前を耳にしたこともあるかと思えます。今回、Doug Cutting 氏本人が来訪され各所で開かれるカンファレンスで講演されると聞き、是非とも創造主である彼の話を聴きたくて(逢いたくて)とあるカンファレンス会場に向かいました。そこで幸運にも拝聴できた顛末の一部を書き記します。

“Apache Hadoop: A New Paradigm for Data Processing”
Doug Cutting, Architect, Cloudera, Inc.

まずは講演されたスライドタイトルの一覧です。

- ◇ Who am I ?
- ◆ Apache Hadoop : a new paradigm
- ◇ New foundations
- ◆ Commodity Hardware
- ◇ Sequential Access
- ◆ Open Source
- ◇ Nutch (2002)
- ◆ Nutch (2004)
- ◇ Hadoop (2006)
- ◆ HDFS
- ◇ MapReduce
- ◆ Hadoop: the ecosystem
- ◇ Cloudera's Distribution including Apache Hadoop
- ◆ Pig & Hive
- ◇ Avro
- ◆ Mahout
- ◇ HBase
- ◆ Flume
- ◇ pattern of adoption

無題

- ◆ advantages of paradigm
- ◇ the future is data

「シリコンバレーで25年のベテランです。」から始まった彼の講演ですが、前半部分は、どのような経緯でHadoopが誕生したのか？というお話でした。

当時 Yahoo!に所属していたエンジニアが、Googleが発表した論文に触発されて開発したソフトウェアがいきなり登場したのであろう、と理解（誤解）されている方が多いかもしれませんが、どうやらそれだけでは無いらしいのです。

Doug氏自身のキャリアは1980年代にXEROXから出発しAppleでMac OSのテキスト検索エンジン開発、90年代にはExciteの検索エンジンを担当、そして全文検索のLucene、それをベースとしたウェブ検索エンジン Nutch など、幾つかのオープンソースプロジェクトに関わっていました。そこではいつも、「大量データをどうやって効率良く扱うか？」の問題と対峙することになり、その都度、試行錯誤を繰り返していたそうです。

勿論、当時同じ問題に直面していたGoogle論文発表のタイミングやこのソフトウェアをプラットフォームとして採択してくれるYahoo!への参画など、ターニングポイントには幾つもあつた事でしょうが、何よりも長年の地道な積み重ねがあつてこそ現在のHadoopだと言えましょう。それ故、オープンソース Hadoop の存在意義を改めて認識した次第です。

「脚踏実地」。紆余曲折ありながらも、ひとつの課題を長年に渡り突き詰めていくことで成功した彼の実直さ、講演で一番感慨深かつたのはこの事でした。

ところで肝心の Hadoop についてですが、Doug Cutting 氏曰く、『Apache Hadoop が一つの新しいパラダイムであり、これこそがデータ解析における回答となるでしょう。』

という主旨の事を仰っていました。この講演を拝聴し、これからHadoopを勉強してみたいという気持ちが膨らんだのは事実です。「千里の道も一歩から」の言葉を再び噛み締める必要があるのでしょうか。

Doug Cutting 氏は現在、Hadoop を生業とする Clouderaの社員なのだそうですが、加えてASFの委員長（チェアマン）でもあるそうです。

Current officers of The Apache Software Foundation:
<http://www.apache.org/foundation/>

講演内容の続きについては、また次回ということにさせていただきます。

関連コースの詳細情報はこちら：

「Java」関連コース
<http://www.school.ctc-g.co.jp/java/>

「クラウド・仮想化」関連コース
<http://www.school.ctc-g.co.jp/cldvir/>

■お問合せ・ご意見・ご感想は◆CTC教育サービス◆窓口まで
シーティーシー・テクノロジー株式会社 エデュケーションサービス部
E-Mail : kyouiku@ctc-g.co.jp / TEL : 03-5712-8701

-
- 外部委託について
弊社はメールニュース配信業務をシーティーシー・ビジネスサービス株式会社（CTC100%出資子会社）に委託しております。
 - 本メールマガジン編集・配信責任者
CTCT エデュケーションサービス部 部長 篠原 義一
所在地：東京都世田谷区駒沢1-16-7 ctc_edu_mail@ctc-g.co.jp
 - 個人情報保護方針
CTCグループの個人情報保護方針につきましては下記URLをご参照ください。
http://www.ctc-g.co.jp/guide/security_policy.html?top=b_security
 - 配信中止及びお問合せ対応について
・「CTC教育サービス News&Topics」の配信が不要な場合には、

無題

下記URLから配信停止のお手続きを行ってください。

<https://krs.bz/ctc-g/m/ctc-education>

- ・当社では、複数種類のメールマガジンやメールニュースを発行しております。大変お手数ではございますが、CTC教育サービス以外からのメール配信についての受信拒否および個人情報に関するご要求は、各メールに記載の個々の連絡先宛にそれぞれご連絡をお願いします。
 - ・受信者ご本人様からの個人情報の開示・訂正・削除に関するご要求は、随時 ctc_edu_mail@ctc-g.co.jpにてお受けいたします。
-